

## 第9回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

- 1 日 時 令和8年8月3日（月）14時～16時
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎市民交流棟 2階 多目的室1
- 3 議事内容

### 【市長あいさつ】

鳥取駅周辺の再整備については、令和6年6月に策定した基本計画をもとに、多くの市民の意見やアイデアをいただきながら、四者連携協議会、駅まち空間デザイン検討部会等で議論を重ね、この度、整備計画の素案を取りまとめた。

本日は、素案の内容や計画の一部を具体的に体感できる3D映像をもとに、ご意見をいただきたい。今後はパブリック・コメント（市民政策コメント）を実施し、実効性と実現性を兼ね備えた整備計画としてまいりたい。

### 【座長・副座長選任】

委員一同から異議なく、谷本委員を座長に選任し、谷本座長より岡委員を副座長に指名した。

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 【議題（1）これまでの検討経緯について】   | 資料により説明（資料P1～11）       |
| 【議題（2）平面横断に関する論点】      | 資料により説明（資料P12～22、3D映像） |
| 【議題（3）整備計画（素案）の後半について】 | 資料により説明（別紙）            |
| 【議題（4）今後のスケジュールについて】   | 資料により説明（資料P24～25）      |

### 【意見交換】

#### 1. 中心市街地との一体的な整備・民間投資の促進について

- ・ 駅周辺再整備は、中心市街地グランドデザインと一体的に進めることが重要である。行政と地元商工関係者が連携し、駅前商店街等への民間投資を促進する環境をつくってもらいたい。
- ・ 市民が自慢でき、全国・世界から視察が来るような場所を目指すことが重要である。人が集まり、行きたくなる空間をつくることで、複合施設や交通拠点施設と中心市街地との相乗効果を発揮し、地域への投資や新陳代謝につなげてもらいたい。
- ・ グランドデザインを早期に示し、まち全体の中での駅の役割や重点的に議論すべき点を整理してもらいたい。

#### 2. 駅前地下道・平面横断について

- ・ 地下道の取扱いは、安全性・利便性や平面横断に伴う信号待ちなど、各案のメリット・デメリットを分かりやすく説明し、中立的に市民意見を把握したうえで検討してもらいたい。

- ・ 平面横断により駅前広場とバード・ハットが近くなり、商店街との一体的な利用やイベントの展開が期待できる。また、地下道の上屋がなくなれば久松山や商店街への見通しが確保される。
- ・ 地下道の維持管理費や、延伸・バリアフリー化に要する費用と時間も考慮する必要がある。人口減少や将来世代の負担を踏まえ、検討を進めてもらいたい。
- ・ アンケートによる仮想的な評価には限界もあるため、平面横断化や地下道との併用を行っている他都市の実例を交え、まちとのつながりや利用状況を客観的に評価することが重要である。

### 3. 雨・雪・暑さへの対応について

- ・ 景観や観光客の視点に加え、日常的な利用者にとっての使いやすさを考慮してもらいたい。雨や雪の日の歩行動線、夏の暑さへの備え、屋根の張り出しや融雪装置の設置などを検討する必要がある。
- ・ バス乗降場周辺の除雪のしやすさに加え、除雪した雪を置く場所まで検討してもらいたい。堆雪場所が利用者の動線やバスの出入口、交差点の配置に影響することも考慮する必要がある。
- ・ 市民に意見を聞く際は、雨・雪への配慮の想定によって回答も変わるため、対応の考え方を示す必要がある。

### 4. 整備の進め方・スケジュールについて

- ・ 都市計画変更やバスターミナル・県道の計画調整、設計について、予算や県側の準備も含め、担当部局と十分に調整してもらいたい。
- ・ バスターミナルの計画・設計が先行することへの懸念がある。複合施設の機能や中心市街地グラウンドデザインと合わせて、バスターミナルの位置づけや全体の整備工程を分かりやすく説明してもらいたい。

### 5. バスターミナルの整備・運営について

- ・ バスターミナル等の基盤施設を市による行政直接整備方式で整備する方針はありがたい。新たなターミナルでも厳しい経営環境が見込まれるため、県の玄関口として、県にも何らかの協力をお願いしたい。

### 6. 評価指標（K P I）・事業効果について

- ・ 効果検証に向け、現時点から必要なデータを戦略的に取得しておく必要がある。くる梨の利用に関する指標などは、居住者・来訪者・観光客といった対象を明確にもらいたい。
- ・ 中心市街地の居住人口は、事業の結果として捉えるだけでなく、まちなか居住を増やす戦略として位置づける視点もある。立地適正化計画やグラウンドデザイン、交通政策との連携を考慮してもらいたい。
- ・ 駅の乗降客数を指標とすることの適否や、中心市街地にとどまらない広域的な効果を捉える視点も含め、K P I の設定を慎重に検討してもらいたい。

### 【主な事務局説明・今後の対応】

- 地元商工関係者との連携を図り、中心市街地グランドデザインへの反映と駅周辺再整備との連携を進める。グランドデザインは令和8年度内の取りまとめを目指し、整備計画との整合を図りながら早期に示す。
- 地下道の取扱いは、比較表やイメージ図、3D映像等を用い、利用者だけでなく利用していない市民の意見も把握する。調査方法は県の道路管理者と調整する。3D映像は市民フォーラム等で活用し、ホームページでの公開方法も検討する。
- 雨・雪への対応は、眺望やまちとのつながり、広場のスペースとの両立を図り、屋根や融雪装置などを設計段階でも引き続き検討する。
- 令和9年度は、複合施設の基本計画と並行してバスターミナル・県道の検討や予備設計を進める予定である。都市計画変更は、予備設計の中で土地の所有者・管理者等の条件を整理したうえで進め、より詳細なスケジュールを示す。

以 上